

石岡市報

8月号
第16号
毎月1回
10日発行

発行所 石岡市役所
石岡市大字石岡408番地
電話(代表) 38番
発行人 鬼沢賢造

人口と世帯(7月31日現在)
世帯数 7,209世帯
人口 男 17,559人
女 18,731人
計 36,290人

農村計画の基礎 調査はじまる

當市の新しい村づくりである農村計画は着々と進行しています。基礎調査の土台である、農地の系統別調査も最近完了しました。この農地であるべきか、農業生産はどうか、施肥はどうか、組合せはどうか、科学的に検討して、経済的に合う、適地適作の指針とし、場当たり主義の不安な農業経営を排し、計画性ある安定した経営の確立を期待するものです。今後農村計画の樹立と推進につ

軒並み赤字の市町村財政

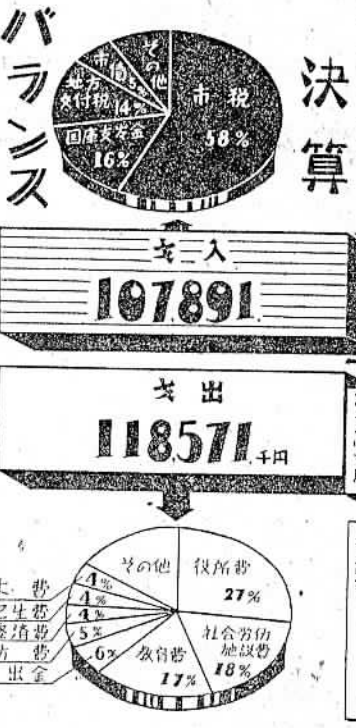
財政規模の圧縮と、増収計画

縣、市、町村の財政状態は極度に逼迫し、二十八年度で赤字を出している団体は、全国の市で六割、町村では一割強に及び、その総額は二百五十億円を超えているという。兵庫縣相生市の如きは、全市市長會などからも脱退をほめかたし、それらの負擔の費用さえも、節約しなければならぬような赤字財政にまで追込まれている。本縣地方課のまとめた縣下十四市の五月末現在における二十九年度決算見込額によると、各市とも前年に比べ大巾に困難の度をましている。勝田、高萩の七市がわずかながら黒字を出している。

事業費は一〇%

昭和二十九年度の決算見込額を概算的に大別すると、消費的経費は九、四、二、三、八、千、八、〇、〇、で、うち一般財源充當額は七、九、五、四、四、千、四、百、人件費(基本給等)は、特別職の給與等)の四、〇、九、〇、二、千、〇、物件費(維持修繕費、旅費、交際費等)の二、九、〇、九、六、千、四、百、が主なものとしてあげられる。投資的経費は一、六、五、一、千、一、〇、〇、で、うち一般財源充當額は七、九、三、三、千、〇、〇、で、単独事業費の四、三、七、五、千、三、八、〇、補助事業費七、二、七、六、千、六、百、

29年度の決算



いては、従来の行政の慣習のようになつて、天下りの措置は厳にこれを廢して、農民各自の要求と、期待とに寄依し、これに科学的な計画性を充分活用して、眞に農村振興に役立ち、農民の意欲にむきあつた、この實行こそは全市農民の経済的向上と、地域農村の繁榮とを約束づけるものにならねばならぬ。その爲には農民各自の現在の経営に對する希望はどんなになつてゐるか、土地利用についてはどんな考えでゐるか、生活の改善については何をとり入れたか、特に農村婦人は過重な毎日の農業労働に對し、どんな考えでゐるだろうか等々所謂輿論を調査して、その結果に基づいて、また部落別に話をしたいと考えています。

昭和29年度市税徴収実績 (単位千円)

種目	予算額	調定額	収入額
1. 現年度分	58,087	57,929	47,539
市定資産税	12,236	11,812	9,364
市定自動車税	31,323	32,248	24,596
市定ガソリン税	1,636	1,898	1,607
市定ガソリン引	8,841	8,088	8,088
市定ガソリン取	3,966	3,898	3,894
市定ガソリン引	—	—	—
市定ガソリン取	20	—	—
2. 過年度分	16,033	26,362	9,059
市定資産税	7,505	9,776	3,398
市定自動車税	8,349	15,845	5,484
市定ガソリン税	179	741	179
市定ガソリン引	—	—	—
市定ガソリン取	—	—	—
市定ガソリン引	—	—	—
市定ガソリン取	—	—	—
3. 舊法による収入	—	269	47
計	74,121	84,560	56,645

市金庫設置など

第四回臨時市議會で

市議會第三回臨時議會は去る八日開かれ上程の三議が可決された。

- ◆議案第六十一号 石岡市金庫設置について(別項報)
- ◆議案第六十二号 石岡市金庫事務取扱者を定めることにつ

市では去る八日の第三回臨時市議會で、市金庫設置及び金庫事務取扱者の決定を行つた。これにより、市の現金出納事務の一切を株式會社常陽銀行石岡支店に任せ、市の出納は、現金保管等の安全化を計

市金庫とは

市では去る八日の第三回臨時市議會で、市金庫設置及び金庫事務取扱者の決定を行つた。これにより、市の現金出納事務の一切を株式會社常陽銀行石岡支店に任せ、市の出納は、現金保管等の安全化を計

市金庫設置など

第四回臨時市議會で

市議會第三回臨時議會は去る八日開かれ上程の三議が可決された。

- ◆議案第六十一号 石岡市金庫設置について(別項報)
- ◆議案第六十二号 石岡市金庫事務取扱者を定めることにつ

市では去る八日の第三回臨時市議會で、市金庫設置及び金庫事務取扱者の決定を行つた。これにより、市の現金出納事務の一切を株式會社常陽銀行石岡支店に任せ、市の出納は、現金保管等の安全化を計

市金庫設置など

第四回臨時市議會で

市議會第三回臨時議會は去る八日開かれ上程の三議が可決された。

- ◆議案第六十一号 石岡市金庫設置について(別項報)
- ◆議案第六十二号 石岡市金庫事務取扱者を定めることにつ

市では去る八日の第三回臨時市議會で、市金庫設置及び金庫事務取扱者の決定を行つた。これにより、市の現金出納事務の一切を株式會社常陽銀行石岡支店に任せ、市の出納は、現金保管等の安全化を計

昭和29年度一般會計の収入状況 (単位千円)

科	目	最終算額	収入済額	未収入額	対算歩
市地公企分使	市地公企分使	74,121	56,645	17,476	76
市地公企分使	市地公企分使	10,032	9,424	608	94
市地公企分使	市地公企分使	302	271	31	90
市地公企分使	市地公企分使	872	794	78	91
市地公企分使	市地公企分使	1,185	955	230	81
市地公企分使	市地公企分使	18,474	16,970	1,434	92
市地公企分使	市地公企分使	1,637	1,086	551	66
市地公企分使	市地公企分使	3,718	2,843	875	76
市地公企分使	市地公企分使	379	379	—	100
市地公企分使	市地公企分使	483	562	79	116
市地公企分使	市地公企分使	5,000	5,000	—	100
市地公企分使	市地公企分使	116,135	94,929	10,524	82

一般會計支出状況

科	目	最終算額	支出済額	算済残額	対算歩
市地公企分使	市地公企分使	4,369	4,157	212	95
市地公企分使	市地公企分使	29,912	23,566	1,346	96
市地公企分使	市地公企分使	5,764	5,357	407	93
市地公企分使	市地公企分使	4,043	3,436	607	85
市地公企分使	市地公企分使	20,236	18,075	2,161	89
市地公企分使	市地公企分使	23,037	20,947	2,150	91
市地公企分使	市地公企分使	5,621	4,476	1,145	80
市地公企分使	市地公企分使	4,890	3,971	919	81
市地公企分使	市地公企分使	899	562	329	63
市地公企分使	市地公企分使	256	204	52	80
市地公企分使	市地公企分使	571	545	26	96
市地公企分使	市地公企分使	2,384	2,268	116	95
市地公企分使	市地公企分使	13,967	3,047	920	93
市地公企分使	市地公企分使	134	—	134	93
市地公企分使	市地公企分使	116,133	105,611	10,522	91

市債現在高 (6月末日現在)

目	借入金	償還高	現在高
新制中學校整備費(府中建築事業)	5,000	2,809	2,191
三制建築事業(石中建築事業)	2,300	—	2,300
三制建築事業(高中建業事業)	500	54	446
三制建築事業(石中建築事業)	4,400	—	4,400
三制建築事業(三村中建築事業)	1,300	—	1,300
三制建築事業(三村中建築事業)	700	—	700
三制建築事業(三村中建築事業)	2,000	—	2,000
三制建築事業(三村中建築事業)	2,500	—	2,500
三制建築事業(三村中建築事業)	500	—	500

市 ◆ の ◆ 商 ◆ 店 ◆ 街 ◆ 診 ◆ 断

市商工課、商工会議所、商工振興事務局では七月二十六、二十七日の二日間にわたり、東京商工指導所商店課長赤羽幸雄氏を招いて、商店街診断を行つたが、その結果概要次のような勧告を受けた。この勧告内容はいづれも今後における石岡商店街さらに石岡市の發展上の核心を衝くものであり注目される。

内容に落着きがある

反面消極的

一、當市への客範圍↓
實販賣圈は水戸市と方は海、人口は人口、城となつたに石岡に約十四万人、比率にならう
商店街はなるう
の状況

は内容的によく落着いているといえるが、それは反面消極的、現状維持的ともいえよう。吸収人口の十四万は他の同規模の都市に比べて多い部類に入るので立地條件は有利といえよう。

三、交通機關は国鐵石岡驛の乗降一日平均一万、バス路線は通過二線の外に石岡起点のもの八線を數える。しかしバス路線の乗降數は國鐵に比して三割程度であつて利用度合は低い。

四、人の集まる施設は一通りはあるが、特に廣い範圍から強力に人を集めるといふものもない。觀光資源も同様である。

足の流れ、商店街との直接關連する位置にないのは惜しい。諸官公廳も散在的であり警察裁判所はメインストリートにあつて逆に商店街形成を妨げている。また飲食店も散在的である。

七、石岡の競争相手は水戸と土浦である。この兩市は商店街の充實よりも盛り場の形成のあること特に土浦のそれが客をひくようである。従つてこの兩市との中間地帯へ伸びる余地は非常に少い。石岡として伸びる余地を持ちまた力を集中しなければならぬ地域は八郷町山沿いの方面と鉾田、大洋、大和の海岸線方面であらう。

商店街の延長が長い

構成は衣料店が他壓的

【形一】石岡の商店街は駅前通、香丸、仲町の丁字型メインストリート沿いであり商店街の形としては一つの典型的なものといえる。

二、道路は大体舗装されていて良いが、しかし共同撒水もなく折角の舗装があるに拘ら

きない。下枝を八尺以上に揃うことと歩道側に伸びた厚みを減殺することが必要である五、主要商店街の業種別構成は部分によつて異なるが、全体的には質廻品業種三二・三％最寄品業種三五・四％飲食業接客業八・三％その他の

老舗が多く安定性強大

夜間照明は不良

【店】一、業者は古いものが多く戦後のものは三割程度である。古いだけに安定性が強いという反面、停滞氣味であるということもできる。

二、店主の年齢は平均四十六才で一般並だが五十才以上が最も多く、その二代目の参加割合がどの程度か比較的年令的に若く見える店が多く、これが活氣となつて現はれてゐる。

戸の残置が多く、通りの活氣を失はせている。

八、店内利用状況では一般に店内の巡回が困難にみえる。

店内利用に最も影響が大きいから注意がのぞましい。

九、その外大小の通り抜けの組合せは非常に少く連統一本の中央陳列台が多く、座賣が昔ながらのものも決して少くない。

【結語】
要は對策を樹立し前進

一、個々の店舗の中にも程度
配高のものもあり、三、四店
配置構成的なものが多い。一
在問題が一般的に存
うと組織の多いこと。共同性
二、組織の多いこと。共同性
の乏しいことが、共同事業の
しにこの指摘とされること。現
面に商店街が立上らないとい
状態を維持するがせいとい杯

点もあり、強力な競争相手に
はさまれていることも決して
不利というべきでなく、店
の個々の状況も部分的には
振のものがあつて総的には
余力ありとみられる。前
余力ありとみられる。前
があり、お発展するものと
れば、な。お発展するものと
る。

總社の祭りも愈々近づいた二十一日、社会教育委員と神社代表者の話し合いが涼風吹き入る社殿で、終始和やかにしかも熱心に続けられた。

その結果兩者共、最近におけるお祭りは市民が経費の負擔に苦痛を感じるようになってゐるから、努めて冗費を省き心から樂しめるものと精神的なお祭りにしていこうという意見の一致をみた。

そこで兩者共同で市内全般にその旨呼びかけを行うと共に町内の代表者と話し合いをすることになつた。

軽い負担で
楽しいお祭りを

社教と氏子会
が呼び掛け

『今年の總社
祭りについて』

總社宮氏子会
社会教育委員会

給社宮大祭が終戦後の世相の影響を受けてその様相が變りその弊害につき免角批難の對象となることは遺憾であります。特に今日の経済情勢の下では一般市民各位の負擔が過重となつてきていることは見逃がせません。市民各位の意向は最小限の経費で心から樂しめる祭りをしたいということとであります。

については神社の慣例に従ひ本

總社宮司石崎弘氏談話
大祭については神社としても
祭典費の問題で年番制のこと
など昨年以來協議を重ね、本
年度も年番富田町に年番規約
の精神に基いて努めて元費を
省き総額十五万円位で精神的
な祭を執行されるよう要望し
同町の賛成を得て目下準備中
であります。従て今回の社教
委の輿論調査について感謝し
ておる次第ですが神社側と連
絡の上で實施したらめつとよ
い結果であつたと考えます。
三日間の大祭は市民の水遠の
信仰と恩慕とを秘める年一回
の集團的感謝の行事であると
同時に全町和協の憩いの祭で

の祭であり縣南地方での祭りとなつてゐます。従つて今から世相神社信仰を高める上からも市の發展の爲にも健全なしかも盛んな祭りとし経費の面ではお互真劍に創意工夫し最小額の経費でよいお祭りにしたいと思ひます。

氏子總代岡村藤吉氏談　續

社の大祭は冗費を省き軽い負擔で誰もが笑つて樂しめるようにして慣例通り続けたいと思ひます。石岡市を始め、しかも神様を中心として頂き敬神の氣風を高める上から真に意義深い行事とするよう御協力をお願いします。

り良くない。裸電球が多くその輝度（ギラ／＼）はかななり商品の面を見にくくしている。アクセントも足りない。路面の明るさでは驛前通りは商店街といえない程である。

五、店舗の間口平均は三、四間で使いやすいのが多い。

奥行平均は三、一間で間口よりやや浅い。総体的に使い方が浅く面積を十分としない。

六、店員一人當り受持坪數は二坪というところで標準的である。

七、店舗の開放度は余りよいとはいえない。特に香丸町ではこの暑い折にも拘らず硝子

【一、個々の店舗の中にも程度の高いものもあり、三、四店た配置構成的なものか。一般的にいうとするが、問題が多い。二、組織のないこと、共同性の乏しいこと、共同事業の貧乏の乏しいこと、共同事業の貧乏を維持するに立上らない。この面を商店街に立ち上らない。この状態を維持することとせいで一杯という形に追こまれるのであろう。三、盛り場的、歡樂的、要件がない。比較的單純な味のない形になっている。前項の大きな課題であるが、問題の着手し決しないといふ問題は着手しがいだろうか。四、立地條件にすぐれている

点もあり、強力な競争相手に
 はさまれていることも決して
 不利というべきでなく、店舗
 の個々の状況も部分的には不
 振のものがあるが、総体では
 余力ありとみとめられるもの
 があり、對策を樹てて前進す
 ればなお發展するものと思は
 れる。

うきよ往來

七月分

出生 五三人 死亡 二四人

井 石 三 東 東 高 染 宮 鹿 基 大 正 荒 守 金 若
 田 大 之 石 上 内 金 横 丸 松
 村 中 橋 濱 谷 郎 子 澤 砂
 木 太 小 管 山 福 菊 淺 大 大 田 中 樞 菰 新 石 和 河 小 廣 入 秋 鈴
 田 沼 谷 口 田 地 野 塚 塚 崎 島 村 内 田 塚 田 原 松 瀬 江 田 木
 づ き す 一 四 は 弘 四 三 政 長 大 房 美 之 の き 代 四 く
 子 い 昭 郎 つ 志 敏 郎 郎 一 正 一 助 一 代 助 い 享 入 る 郎 に
 三 四 五 一 六 三 七 三 六 七 一 八 六 七 六 六 六
 七 七 一 〇 四 〇 七 〇 〇 二 一 〇 七 八 〇 二 一 〇 九 四 五 五

[illegible]

町名	父之名	恒三治男	正之助男	英之助男	忠藏男	和藏男	萬藏男	作四郎	清政吉	隆政八郎	正八郎	實徳一	慎徳一	禮次郎	留次郎	寛次郎	茂次郎	余信吉	勇志	政吉	仁彦	明次郎	有雄
元廣地	櫛柄	比倉本	水谷本	青木本	安達本	佐藤本	桐生本	借田	大市村	中川村	本郷	關本	富田	戸田	宮崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎
町名	父之名	恒三治男	正之助男	英之助男	忠藏男	和藏男	萬藏男	作四郎	清政吉	隆政八郎	正八郎	實徳一	慎徳一	禮次郎	留次郎	寛次郎	茂次郎	余信吉	勇志	政吉	仁彦	明次郎	有雄
元廣地	櫛柄	比倉本	水谷本	青木本	安達本	佐藤本	桐生本	借田	大市村	中川村	本郷	關本	富田	戸田	宮崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎
町名	父之名	恒三治男	正之助男	英之助男	忠藏男	和藏男	萬藏男	作四郎	清政吉	隆政八郎	正八郎	實徳一	慎徳一	禮次郎	留次郎	寛次郎	茂次郎	余信吉	勇志	政吉	仁彦	明次郎	有雄
元廣地	櫛柄	比倉本	水谷本	青木本	安達本	佐藤本	桐生本	借田	大市村	中川村	本郷	關本	富田	戸田	宮崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎	長崎